

03 エサの種類

へら鮎釣りに使用するエサは、魚の生態や習性、釣り場の状況に合わせてより効果的に釣るために作られています。

ここではへら鮎釣りに使うエサの素材や種類について説明することにしましょう。

麩エサ

麩エサは、へら鮎釣りで最も使用頻度の高いエサです。なぜ麩エサがへら鮎釣りで多用されるかというと、麩エサが水中で溶けて漂う様子がたくさんの植物性プランクトンが水中で漂っている姿とよく似ていて、視覚的にへら鮎の興味を引くという点でしょう。麩エサとは、皆さんご存知の麩を粉碎したものです。焼き加減による麩の硬さや粉碎する粒子の大きさで、バラケ性や作ったときの感触に違いが出てきます。また、麩エサにさなぎ粉やペレットなどの集魚材を加えられたものも多く、へら鮎を寄せること、食わせることの両方に使われています。



かえるようにつなぐことです。軽く吸い込みがよいのでへら鮎にとっては違和感なく吸い込める素材です。特に暖かい時期のエサとして使われています。

くわせエサ

● わらびウドン

へら鮎釣りでウドンと呼ばれているのは、このわらびウドンのことです。イモ類のデンプンを主原料にしていて、水に溶かし火にかけて作ったモチ状のものを小さく切り、くわせエサとして使います。主にへら鮎の食いが渋いときや、寒い時期のセット釣りのくわせエサとして使われています。

● インスタントウドン「感嘆」

釣り場で過熱せずに簡単に作れるわらびウドン感覚のくわせエサです。わらびウドン同様、寒期のくわせエサとして使います。

● 切り麩「一発」

麩を円筒状に小さくカットした、軽く吸い込みのよいくわせエサです。主に暖かい時期の野釣りで多く使われています。



マッシュ

マッシュポテトは、ジャガイモをすりつぶしてフレーク状に乾燥させたもので、麩エサができる前はへら鮎釣りの主流だったエサです。麩エサ全盛の現在でも、ジャミが多い場所や大型狙いの野釣りなどでよく使われています。



グルテンエサ

グルテンエサは、前記のマッシュポテトとグルテン粉をブレンドしたものです。水中ではグルテン繊維がまとまりにくいマッシュポテトの粒子をつなぎ止めサラサラと溶けさせて、最後に綿状のグルテン繊維が残りへら鮎にアピールします。マッシュポテトのフレークの大きさと、グルテンの種類や量を調節することによって、各グルテンエサの性質はさまざまなものができます。



集魚材

● さなぎ粉

養蚕(ようさん)で取れる蚕(かいこ)のさなぎを乾燥粉末化したもので、魚の好むアミノ酸を多量に含んでいます。へら鮎を寄せたいときに麩エサやマッシュポテトに混ぜると効果的です。



● ペレット

ペレットとは魚の養殖用の飼料です。これをへら鮎釣り用のエサに使いやすいように顆粒もしくは粉末状に加工したもので、麩エサに混ぜて使います。魚粉などの動物性タンパク質を含んでいるので、集魚効果の高いエサです。



トコロ

トコロは、皆さんの食卓にのぼるトコロ昆布と同じもので、麩エサと混ぜて使います。トコロの役割はグルテン繊維と同じで、麩エサの粒子を抱きか



麩系バラケ・共エサ性質表



ONE POINT LESSON



● **バラケエサ**

魚を寄せることを目的としたエサのことで、2本あるハリの上(短い方のハリ)に付けます。また、エサが溶けることを「バラける」ともいいます。

● **ダンゴ**

ひとつのエサで、寄せることと食わせることの両方の役割を持たせたエサのことをダンゴといいます。

● **共エサ**

上バリ、下バリの両方に同じエサを付けたものを共エサといいます。

グルテンエサ性質表



性質表の見方

性質表はエサの重さやバラケ性を表しています。縦軸はエサの重さ、横軸はバラケ具合。底釣りでする「パウダーベイトボトム」を例に見ると、重さがあるバラケ性は弱いことがわかります。

なお、表のデータは標準水量を加え、単品使用の当社実測によるものです。釣り場の状況や作り方により異なる場合がありますので、目安としてエサを選ぶときの参考にしてください。

